第１１回がんゲノム医療中核拠点病院等連絡会議　議事概要

■日　時：令和６年（2024 年）３月４日（月）13：30～15：00
■場　所：Web 開催
■出席者：

議　長：	田中	栄	東京大学医学部附属病院長
構成員：	渥美	達也	北海道大学病院長
	張替	秀郎	東北大学病院長
	大津	敦	国立がん研究センター東病院長
	松本	守雄	慶應義塾大学病院長
	島田	和明	国立がん研究センター中央病院長
	高橋	俊二	がん研究会有明病院副院長・ゲノム診療部部長［代理］
	剱持	広知	静岡県立静岡がんセンターゲノム医療推進部 ゲノム医療支援室室長［代理］
	小寺	泰弘	名古屋大学医学部附属病院長
	武藤	学	京都大学医学部附属病院長補佐[代理]
	竹原	徹郎	大阪大学医学部附属病院長
	豊岡	伸一	岡山大学病院ゲノム医療総合推進センター長［代理］
	馬場	英司	九州大学病院がんセンター長［代理］
	河野	隆志	がんゲノム情報管理センター長
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：	扇屋	りん	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課がん対策推進官
	千葉	晶輝	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課課長補佐
	橋本	侑介	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課課長補佐
	春名	健伍	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課主査
	がんゲノム医療拠点病院代表者		

■議　事：

報告事項１．　がん遺伝子パネル検査及び C-CAT データ利活用の現状について
報告事項２．　がんゲノム医療中核拠点病院等の整備に関する指針等の改正事項
報告事項３．　がんゲノム医療中核拠点病院等連絡会議ワーキンググループの活動状況について
審議事項１．　C-CAT データの海外提供に係る ICF モデル文書及び二次利活用ポリシーの改定について
総合討論　　今後のがんゲノム医療のあり方について、その他

■概　要：

冒頭、構成員の出席状況の報告後、事務局から議長引き継ぎの報告と新構成員の紹介があった。議長は前議長、瀬戸泰之先生の病院長退任を受け、残任期間を新病院長の田中栄先生が引き継ぐことで構成員すべての先生から内諾を得てご就任されている。また、新構成員のうち東北大学病院長、がんゲノム情報管理センター長より挨拶があった。

続いて、C-CAT から資料１、資料４について、厚生労働省から資料２について、各ワーキンググループから資料３についての説明があった。また総合討論として、国立がん研究センター東病院長の大津敦先生から今後のがんゲノム医療のあり方についてプレゼンテーションがあった。各議事における主な意見は以下のとおりである。

<u>構成員からのご意見等</u>

報告事項１．　がん遺伝子パネル検査及び C-CAT データ利活用の現状について〈資料１〉

・特段の意見なし。

報告事項２．　がんゲノム医療中核拠点病院等の整備に関する指針等の改正事項〈資料２〉

・（京都大学医学部附属病院）エキスパートパネルができる連携病院について、充足する要件のカウント数は現況報告の期間なのか、それとも直近のデータなのか。

☞（厚生労働省）基本的には中核拠点病院及び拠点病院において、直近１年間のデータで問題ない。厚労省では件数について現況報告書の中でフォローしていく予定。

・（がん研究会有明病院）持ち回り協議のみ行い、リアルタイムでのエキスパートパネルを必要としない症例の運用も４月１日から始めてよいということか。

☞（厚生労働省）各中核拠点病院、拠点病院において準備ができたら４月１日から実施いただいて問題ない。

報告事項３．　がんゲノム医療中核拠点病院等連絡会議ワーキンググループの活動状況について〈資料３〉

・特段の意見なし。

審議事項１．　C-CAT データの海外提供に係る ICF モデル文書及び二次利活用ポリシーの改定について〈資料４〉

・（東北大学病院）海外に提供した後の二次利用は可能なのか。

☞（がんゲノム情報管理センター）海外に限らず、申し込んだ利用者のみが利用可能で、さらなる第三者提供は禁止。委託業者へのデータ成形等の依頼については許諾しているが、あくまでも審査を受けた方だけが利用する形となっている。

総合討論　　今後のがんゲノム医療のあり方について、その他

・(国立がん研究センター東病院) 議論を希望する内容について4点提案させていただく。
1点目は、C-CATシステム改修に伴う医療機関のシステム改修費について。システム改修費に関して、厚生労働省等で予算の別建てにて対応するよう、本連絡会議からの要望とすることを承諾いただきたい。
2点目は、C-CATへの情報入力の在り方や情報利活用に関して。CGP検査が保険収載され、C-CATに蓄積された情報は既に7万例になっている。情報入力が必要な対象、内容、期間について改めて議論すべきではないか。また、今後は検査結果の集積による変異の頻度情報としてのデータベース運用に変えていってはどうかという意見がある。この点について診療ワーキングを中心に現状の課題とあるべき方向性について報告書を作成し、この報告書を元に開催する連絡会議を半年後とすることを認めていただきたい。
3点目は、がんゲノム医療の諸問題を解決するためのワーキンググループの再編/新設について。現在のCGP検査は検査実施タイミングの適正化、エキスパートパネル開催要件の見直しなど検討課題が存在する。C-CATと連携しながらこれらの問題を横断的に対応するためのワーキンググループの再編あるいは新設を検討するという方向性について認めていただきたい。
4点目は、全ゲノム解析等実行計画に関する情報共有について。全ゲノム解析に関する情報共有、議論の場を次回の連絡会議に設けていただきたい。

☞(京都大学医学部附属病院) がんゲノム医療についてはデータ入力が現場に大きな負担となっている。軽微な変更のはずなのに全データの入れ直しが必要だったり、アウトカム情報が取れないケースもあったりして、事務の負担が大きすぎるためゲノム医療に手を挙げたくない病院もあるのが現状となっている。これらは均てん化の阻害要因になっているので、7万例の症例データが集まっている状況を踏まえ、ゲノム医療の均てん化について検討する機会をつくっていただきたい。

☞(慶應義塾大学病院) 本会議は1年に1回の開催になっているが、なかなか議論が進まないため半年ほどでの開催についてご検討いただきたい。

☞(国立がん研究センター東病院) 全体の改善のためにはワーキンググループを横断的にやる必要があると思うが、別枠のワーキンググループもあったほうがいいだろうか。

☞(京都大学医学部附属病院) 横断的にやるのはなかなか難しいが、各ワーキングから有志を集めて協議してもいいし、以前あった実務者会議のような全体像を見据えたワーキンググループをつくって運用してもいいのではないか。

☞(東京大学医学部附属病院) もしよろしければ診療ワーキンググループの武藤先生が中心となってメンバーについての案を出していただく形か、あるいは診療ワーキングにメンバーを追加して議論する形はいかがだろうか。

☞(京都大学医学部附属病院) どこかがハブになる必要があると思うので、よろしければ診療ワーキングがハブとなって各ワーキングの先生方に声をかけて全体的なディスカッションをする機会をつくっていきたい。

☞（東京大学医学部附属病院） 半年ぐらいを目処に、ある程度の結果を出していくというスケジュール感で、武藤先生にはご負担をおかけするが、よろしくお願いしたい。

・（大阪大学医学部附属病院） がんゲノム医療連携病院でのエキスパートパネル実施可能施設に予算は配分されるか。

☞（厚生労働省）連携病院でのエキスパートパネルは今年度から限定的な施設で試行的に始まる制度なので現時点では補助金はない。

・（京都大学医学部附属病院） 全ゲノム解析等実行計画というのは実施の際には現場に大変な負担がかかることが予想されるので、今後の予定については情報共有をお願いしたい。

☞（厚生労働省）承知した。情報については精査した上でその都度共有させていただきたい。